

【戸塚区】令和5年第2回区づくり推進横浜市議員会議 議事録

開催日時	令和5年6月12日 15時15分～16時45分
場 所	戸塚区総合庁舎9階特別会議室
出席者	<p>【座 長】伏見幸枝議員</p> <p>【議 員：5名】鈴木太郎議員、山浦英太議員、中島光徳議員、坂本勝司議員、大和田あきお議員</p> <p>【戸塚区：23名】國本直哉区長、小島寿也副区長、飯野真理福祉保健センター長、増田政博福祉保健センター担当部長、白井一彦土木事務所長、田邊栄久災害対策担当部長（戸塚消防署長）ほか関係職員</p>
議 題	令和5年度 個性ある区づくり推進費 戸塚区予算執行計画
発言の要旨	<p>中島議員：「誰もが自分らしく健やかに暮らせるまちづくり」で、特定健診受診率が戸塚区は市内1位となっているが、これは去年か、一昨年か。</p> <p>川井保険年金課長：一昨年です。</p> <p>中島議員：特定健診の受診については、今年の5月からマイナンバーカードと紐づけて履歴が見られるようになったと健康福祉局の常任委員会で聞いた。戸塚区において、受診率向上の啓発の際に、マイナンバーから受診履歴が分かることも合わせて周知してほしい。</p> <p>続いて、継続的に進めている県立高校の補充的避難場所について、今年の動きがあれば教えてほしい。</p> <p>藤咲総務課長：上矢部高校については、周辺自治会の役員からかなり熱心に運営方法についてご相談を受けている。7月1日には地域住民による避難訓練を実施する予定と聞いているので、区役所としても支援していきたいと考えている。桜陽高校と舞岡高校は周辺の地区連合町内会長に対</p>

し、補充的避難所の役割や開設条件、運営方法について説明し、あわせて防災拠点と連携した避難訓練の実施について検討をお願いしたところである。

中島議員：県立3高校の活用については、戸塚区が横浜市でリードしてモデルになるよう機能させてほしい。中外製薬とも協定が結ばれたので、他の企業も戸塚区内の補充的避難場所としての受け皿となるよう準備を進めてほしい。

続けて、スポーツレクリエーションについて、昨年区民の盛り上がり現場で感じたし、スケードボードの開催もあれほどの人気があつて良かった。今年も、舞岡八幡山しぜん公園にスケードボード場ができるという広報も行い、活動して行ってほしい。

岩崎地域振興課長：去年はスケードボードの人気が非常にあり多くの方に応募してもらったが、その全てにお応えできなかったので、今年は講師をお願いする方とも調整して多くの方が参加できるように、さらには参加する子どもの付き添いの保護者や、事前申し込みをしていない方も体を動かしたりできないか、市スポーツ協会と調整している。

中島議員：是非イベントは盛り上げてもらいたい、舞岡にどんな公園ができるのかを局とも連携を取りながら少しでも早く発表してほしい。

大和田議員：「交通安全・放置自転車対策事業」について、民間の駐輪場が2か所閉鎖されたため駅周辺の駐輪場はいっぱい、放置自転車にならざるを得ないと住民から聞いている。放置自転車の注意喚起は当然大切だが、困っている方の新たな駐輪場対策を民間と連携して検討してほしい。

岩崎地域振興課長：区役所地下や高架下の駐輪場は自転車が濡れず、利用者が濡れずに駅に行けるので人気が高く、待ちの状態が続いている。一方、駅から少し離れた駐輪場は今でも空きがある。駅周辺の利用者は大半が定期利用になっているので、一時利用者のことも含めて管理をしている道路局と連携しながら放置自転車が増えないように、さらには買い物で来られる方にはそれぞれの事業所の駐輪場を利用してもらえよう案内

を進めていきたい。

大和田議員：対策は大切だと思うが、閉鎖した民間の駐輪場にも事情があると思う。戸塚区としての政策として、民間と放置自転車対策を連携して協議を進めてほしい。

山浦議員：「個性ある区づくり推進費」は、創設から29年が経っているが、事業内容を決める意思決定や事業に関する評価の方法が変わっていないと思っている。事業内容を見ると、イベントなどが多く、防災や子育て支援など地域の課題解決につながる事業が少ないのでは、と率直に感じている。今後は事業に関する意見を聞いたり事業評価のアンケートを取るなど、見直しも必要ではないかと感じているが区長の見解は。

國本戸塚区長：本日は自主企画事業費をメインに説明しており、局からの区配事業の説明をしていないので、具体的に何が不足していると感じられているか今はイメージできないが、確かに十分だとは思っていない。自主企画事業は約1億円という枠の中でブラッシュアップしながら工夫しており、区民の方からの意見や区連会、こういった場でも意見を聞きながら予算編成を進めてきた。さらなる意見を聞くという仕組みは必要かもしれないが、市民局の方でも検討すると聞いているので、局と連携して検討していきたいと思う。

山浦議員：意思決定やプロセス含め、地域の方からの意見を聞いているということも見える化し、足りないものは謙虚に足してほしい。

坂本議員：地域の居場所づくりの支援について、谷戸矢部公園の「ぷらっと」はまち普請事業の関係でできた良い参考事例となると思うが、公園が一つのコミュニティになるような支援ができないかと思う。区としてそういった支援はあるのか。

岩崎地域振興課長：とつか区民の夢プロジェクトや青少年の育成のための補助金や、福祉保健課のハートプランの補助金がある。

坂本議員：公園の整備関係で環境創造局含め多くの意見を提起している

が、トイレの問題が非常にネックになっていると思う。休止している所を含め、再開するとすぐに壊されるという後ろ向きな議論でなく、どうすれば再開できるか、もう一步踏み込んで検討してもらいたい。「戸塚桜まつり」でもトイレの問題が深刻で、何とかしてほしいと要望も受けた。

岩崎地域振興課長：トイレは近隣の方のご理解が必要で、以前、戸塚小学校付近に公衆トイレがあったが、地域の要望があって撤去したと資源循環局に確認している。イベント時に仮設トイレの設置という考えもあるが、どこに設置するかも近隣の方のご理解が必要となる。トツカーナ含め近隣の商業施設はトイレを利用することで施設も利用してくださいとしているし、地区センターや図書館など公共施設も利用できる。今後、商店街等とも相談していきたいと思う。

坂本議員：国際園芸博覧会に向けてだが、戸塚駅西口のデッキの植栽がなくなり寂しさを感じている。駅からも目立つ場所なので、花博に向けたPRをしてほしい。

安達土木事務所副所長：西口のデッキについては、花壇を整備することプラス花博の機運醸成ということで横断幕を掲示することを考えている。また、市民の方がイベントをできるスペースを確保していく予定である。

坂本議員：市役所には多くの花が飾られており、多くの方が楽しんでいられる。市役所同様とまでは言わないが、せっかく目につく場所なので、花を楽しめる環境を作ってもらいたい。

続けて、戸塚スポーツセンターの音響設備が悪いので、指定管理者と調整してほしい。

岩崎地域振興課長：立つ位置によりマイクが上手く声を拾えなかったり、電池の交換もある。立つ位置であれば指定管理者から利用者へ伝えてもらうなど案内するなど、確認をしていきたい。

坂本議員：立ち位置の問題で済ますのではなく、今は性能のよい機材もあるので、色々と検討してほしい。

あと消防の関係で、西林寺が火事になったとき、泉区の所管なので戸塚

消防団には情報が入ってこなかった。区境での火災のときなど、隣接区同士での連携的な訓練も行えないか検討してほしい。

田邊戸塚消防署長：先日の火災のときには、団長も現場に近いので行かれたという話もあるが、基本的には、活動するには泉区の消防団長からの応援要請が必要。区境については隣接する消防署と相談しながら訓練を行っていききたい。

大和田議員：戸塚区は道が狭く、坂道が多いので買い物が大変という声がある。横浜市としてはコミュニティバスの検討をしており、小雀町では1回400円で運行して一定の利用効果があるが、費用が高いなど地域からの声がある。市として移動販売も推奨しているが、地域でまとめ役がいないと民間事業者との調整もできない。戸塚区として移動販売の対策をできないかと思うが、検討状況などあれば教えてほしい。市に確認したら区単位で対策を検討してほしいと言われた。

雨堤区政推進課長：区民からも要望を聞くが、具体的に何が不便なのかなど、丁寧に確認しながら解決に向けて取り組んでいる。コミュニティバスがなくても買い物ができればいいという方もいれば、自分で買い物に行きたいという方もいる。事業者がバスを運行するためには採算性がないと運行は厳しい。早期の実現は難しいが、個別に相談に応じながら進めていきたい。まずは、区政推進課にご相談いただければと思う。

鈴木議員：さきほど山浦先生が言った通り、そんなに区役所が前に出ないことが理想。一步引いて見てみると、無理やり予算を作成している感じがする。行政がセーフティーネットになることは大事だが、セーフティーネット以上にやる必要がない方向にいった方がいいと思う。来年度の編成をする際はベースラインを決めた方がいいと思うし、長い目で見てほしいと思う。

保育所の整備について、戸塚駅周辺を重点整備地域に指定しているが、民間事業者からの反応がなくて、さらに補助率を高めて募集していると聞いている。市域全体としても新規整備が必要な限られた地域として戸塚駅周辺がなっているにも関わらず整備できていない状況と捉えているが、状況はどうなっているのか。

畠山学校連携・こども担当課長：令和6年4月開所に向けての整備状況は、戸塚駅10分圏内にエリアを設定して現在3次募集をしているが、まだ事業者からの応募はない状況。引き続き局と連携し、民間事業者とも調整しながら、整備を進めていきたい。また新規整備のみでなく、既存の保育所の活用にも力を入れていきたいと考えている。

鈴木議員：戸塚駅周辺の再開発が落ち着けば当然ながら物件が出てこなくなるので、そうなった場合10分圏内の縛りについて考えていかないと量的整備が進まないということになる。来年4月開所と考えると夏までが勝負なので、規制を緩めることも含めて区としてのスタンスをもう1回考えたほうがいいと思う。

もう一点、地盤沈下についてだが、川があることで全体的に地盤が下がっているのでは、と聞かれた。具体的には戸塚スポーツセンターの周辺だが、雨水柵周辺の道路4～5cmが下がっており雨水柵が水を吸い切れておらず、水たまりになっている箇所が1～2か所ではなく数か所と聞いている。

國本戸塚区長：まずは現地で応急的な対応はできるので、具体的な場所を土木事務所に教えてほしい。地盤全体が下がっていれば水道管も雨水柵も下がると思われる。現在行っているかはわからないが、地盤の高さを経年で計測していた時もあったので、そのデータを見ると地盤のことは分かる。

鈴木議員：応急措置をしてもらうことになると思うが、その繰り返していいのか。原因を調べてもらえるならばしっかりと調べた方がいいと思う。

國本戸塚区長：そういったデータがあるかどうか調べ、あれば地盤の高さを調べてみる。

鈴木議員：水道管や上水管なりに亀裂が入り、そこに土が流れ込んだりすると下がるのでは。そういったことを任意のエリアで調べることができるか。

國本戸塚区長：地盤だけが下がっていると下水管に土が流れることも確かにある。確かめるのは土を掘って、下水管を調べないといけない。

白井土木事務所長：下水道を調べると沈下状況が分かると話があったが、下水管は自然流下で流しているの、勾配がないと流れない。下水管が沈下しているか曲がってしまっているかなどを調べるためにはカメラがある。ホースのようなもので50mくらい伸ばせる。下水道を一つの足掛かりとして地盤沈下を調べることができる。地盤沈下の要因は色々と考えられるが、例えば、柏尾川は古い川なので堆積している層によっては沈下する可能性あるが、ここ最近では戸塚でそういった沈下は確認されていないので、他の要因かもしれない。色々な検証をしながら地盤沈下が生じているのか確認していきたい。

中島議員：地下街を有する駅周辺に下水道の水位情報を発信する設備があり、令和6年度から戸塚駅でも運用開始を目指すとの答弁があった。地下街に水が入ってくる前に下水道の水位情報を発信してスマホで見て危険かどうかを確認できるシステムになるが、設置場所等に関して区役所でも情報を掴んでいるか。

安達土木事務所副所長：環境創造局から戸塚駅で行うと話があったが、具体的な場所までは聞いていない。情報が来たら、区民への説明方法や設置場所など局と調整していきたい。

中島議員：やるのは決まっており、スマホで登録すれば水位の情報を確認できる。区民や地域の安心の一つの材料となるので、局と連携しながら進めてほしい。

伏見議員：「災害に強いまちとつか」について、視覚障害者など障害者向けのリーフレットは作成しているのか。

山崎高齢・障害支援課長：視覚障害者向けの災害対策リーフレットを昨年度に作成した。日頃から備えてほしいこと、近所の方々に自分自身が居ることを知ってもらうこと、地域の防災訓練に参加することなどを掲載している。今年度は知的障害者や精神障害者向けのリーフレットの作成を計

画している。

伏見議員：地域防災拠点には障害者向けの備品も整備されていると思うが、たまたま聴覚障害者の方が訓練に行った際、訓練場所において対応してもらえなかったと聞いている。用意されているが活用されないではなく、訓練時から備品が使用できるよう推進してほしい。社会福祉協議会との連携はどうなっているのか。

藤咲総務課長：地域防災拠点には平成 20 年からコミュニケーションボードを備えているが、あること自体なかなか認識されていないと思い、先月、地域防災拠点運営委員会の委員長が参加された協議会の中で倉庫内に備えていることを周知した。今年の 8 月から 9 月にかけて社会福祉協議会の協力を得て、コミュニケーションボードや文字盤を再配備するという話も聞いているので、引き続き各拠点の皆様と連携していきたい。また、区の聴覚障害者の協会とも近々話をさせてもらい、当事者の方の訓練参加にむけたニーズを伺えればと考えている。

伏見議員：せっかくいい物が拠点にあるならば、しっかりと活用してほしい。

もう一点、「子育て応援事業」について、父親の育児支援の視点も取り入れたリーフレット作成とあるが、今までなかったのか。

小嶋子ども家庭支援課長：父親向けの育児情報の発信や父親が育児仲間を作る場の発信などは行政がなかなか行っていなかった。今回は母親にお渡しする妊娠カレンダーとともに情報発信をしていく。

坂本議員：新型コロナについて、最近は患者数が増えているなどの報道を見るが、戸塚区の状況を教えてほしい。

佐藤福祉保健課長：5 月 8 日以降全数把握から特定の医療機関からの定点把握になったため、なかなか把握がしきれていないが、先週からの様子を見ると横浜市全体ではグラフでいうと右肩上がりであり、戸塚区もほぼ同じような状況。まだ 4 週間しか経っていないため、傾向はつかめきれていない。

	<p>坂本議員：区窓口でのアクリル板の撤去などについて、市全体で方向性は示されているのか。基本的には撤去するのか。</p> <p>藤咲総務課長：重症化リスクの高い窓口などには、引き続きアクリル板を置いている。</p> <p>坂本議員：中外製薬の周辺が氾濫するようなことを言われているが、ここ数日の大雨による影響で変な水の流れや水溜まりができた、などの話を聞いているか。</p> <p>安達土木事務所副所長：特段そういった話は聞いていない。</p> <p>伏見議員：戸塚駅西口花壇が撤去されて寂しい気がする。東口は花壇があり「はなさかクラブ」が掃除をしているが、戸塚駅として東口と西口とで一体的に連携してほしい。</p>
備 考	